

人・社会・科学技術のあるべき関係を求めて ：ELSI研究と社会心理学

日時 2020年11月8日（日） 10:30～12:00

方法 オンライン開催

参加申込 <https://form.jst.go.jp/enquetes/elsi-ws-20201108>

* 参加費無料・定員100名

* 参加申し込みをいただいた方に、参加URLをご案内します。
2020年11月7日(土) 17:00までにお申し込みください。

* 日本社会心理学会第61回大会参加者の方は、参加申込は不要です。
大会ヘルプデスクからの開催案内に従ってご参加ください。

登壇 企画・司会：唐沢 かおり（東京大学 大学院人文社会学系研究科 教授）

話題提供：唐沢 かおり

小林 傳司（大阪大学 名誉教授）

濱田 志穂（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 主査）

指定討論者：浦 光博（追手門学院大学 心理学部心理学科 教授）

戸田山 和久（名古屋大学 大学院情報学研究科 教授）

概要

科学技術の進展は、人と社会のあり方に大きな影響を与えています。新しい知や恩恵をもたらし、豊かな社会を実現することに貢献してきた一方で、人類の歴史にとって不可逆的な破壊をもたらす可能性も論じられています。そのような中、ELSI（Ethical, Legal, and Social Issues/Implications）やRRI（Responsible Research and Innovation）というキーワードのもと、産・学・官の各レベルで学際的な議論を進める必要が認識され、研究開発プログラムや、そのことを専門的に論じる人材育成拠点も出来つつあります。

人と社会との関係を論じてきた社会心理学は、このような動向に大きな貢献をなし得るポテンシャルを持ち、他分野からの期待も大きいと言えます。しかし、ELSI/RRIという言葉や概念が多くの社会心理学者にとってはなじみがない状況にあること、さらには、我々が持つ知見や方法論が、他分野との協働研究の中で健全に用いられる必要があることを踏まえると、ELSI/RRIとは何か、また、この概念を巡る議論の歴史や関連する動向について、社会心理学コミュニティが理解したうえで、議論を深める必要があるのではないのでしょうか。

本ワークショップでは、ELSI/RRIを巡る学術的動向や官・産における動向、ELSI/RRI研究に社会心理学が携わることで生まれる新たな展開、知見・方法論の用いられ方に関する問題点、企画者が関わるプログラムでの具体的なファンディングの可能性の紹介などを中心に話題提供を行います。指定討論では、提示された論点について、批判的な検討を行います。これらを通して、社会心理学が「人・社会・科学技術のあるべき関係」に関する議論にどう関わり貢献していくのか、その可能性を探ります。

問い合わせ

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

社会技術研究開発センター（RISTEX）ELSIプログラム事務局

E-mail：ristex-elsi@jst.go.jp